

共生社会の実現を目指した都情研の役割  
～協働的な学びと個別最適な学習の実現をめざして～

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長

国立市立国立第二小学校長 小林理人



前代未聞の全国一斉臨時休業の開始から一年が経過しました。この一年を振り返ると、これまで当たり前にできたり、手に入れたりしていたことができなくなり、日常の有り難さを痛感する一年でした。しかし、この一年間、今起きていることの原因を考えたり、そのことを受け入れたりすることで未来への扉を開く鍵や、未来へと続く道を拓く道標を得ることにつながったようにも思います。この一年、都情研の様々な活動に携わり、私たちに求められている使命を果たすために尽力してくだつた皆様には様々な面で臨機応変なご対応ありがとうございました。

さて、新年を迎え、これからの学校教育の指針となる中央教育審議会の答申が示されました。そこには、目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、私たちが進めている共生社会の実現を目指した連続性の

ある多様な学びの場の一層の充実・整備の必要性が示されています。また、東京都の新年度予算案にも共生社会の実現に向けて社会全体が大きく動く中で、発達障害教育の指導内容・方法の充実に大きな予算が充てられています。

このように、共生社会をめざして全ての子どもたちが通常の学級で過ごせるような環境や制度が整備されようとしています。そして、その大きな動きを見据えて、私たち都情研がこれまで培ってきた情緒障害教育への専門性や特性に応じた指導・支援の在り方、専門性を高めるための研究・研修の進め方と組織等の価値ある財産を基盤としてできること、期待にこたえることを整理してみました。

教員の資質・専門性の向上

都情研では例年「特別支援学級・教室の実態を調査し、適切な指導、

教育環境、研修体制の充実に活かすこと」を目的に調査研究を行っていきます。

コロナ禍の本年度も調査を行い、巡回指導を行う教員に求められる資質や高い専門性が、指導経験の少ない教員が多いことから校内での育成・養成が難しい実態が明らかになりました。また、指導対象の児童・生徒数の増加に伴い、教員数の不足から特性に応じた指導が十分に行うことができない実態があることも見えてきました。さらに、固定学級の増加から、交流及び共同学習の方法や交流学級との連携など固定学級特有の課題があることも新たな課題として明らかになりました。

そこで、今後も本会で進める専門性の向上につながる研修を充実させ、巡回指導教員が研修に参加できる校内体制を整えらるとともに、学びの連続性や固定学級の増加に対応できる教員に対する理解啓発等を進める必要があります。

研究・研修の企画・運営

都情研では、ブロックごとの研修をほぼ月に一回の割合で実施しています。そして、そこには高い専門性と質の高い指導力を身に付けるためにたくさんの参加者があります。しかし、今年度はコロナ禍での開催となり、時期や地域や規模によりオンライン等を駆使し、様々な工夫をした開催となりました。その中で、研

修会参加のための移動がなくなり参加しやすくなったことや、研修内容を繰り返し視聴したり、サテライト会場で少人数のミーティングを行ったりしたこと、理解を深めることができた等、対面での研修では得ることが出来なかった成果もありました。

今後、今年度の成果を活かすとともに、各ブロックの実態やニーズを踏まえ、様々な状況に対応した柔軟な運営が求められます。そして、「都情研の研修に参加すれば、現場ニーズに応じた最先端の学びができる」という本会の風土を基盤に、教員の資質や専門性の向上につながる研究・研修を企画、運営してまいります。

私たちがめざす共生社会の実現につながるインクルーシブな教育を進めるには、あらゆる多様性に対応できる学校、学級やシステムを創ることが必要です。言い換えれば、様々な特性やニーズのある子供一人ひとりが学ぶ意味を感じ、学校教育ならではの協働的な学びや、資質・能力を身に付けるための個別最適な学習を進めることができる学びの場を実現することが必要不可欠になります。この大きな目標や進むべき方向性を見失うことなく、都情研の活動を継続、発展させていきたいと考えています。

結びに、コロナ禍の一年、本会を支え、活動をつなげてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

# 令和2年度 東京都公立学校情緒障害教育研究会 活動報告

研修会名	企画	期日	時間	場所	内容・テーマ・演題	講師等	参加者数
定期総会・記念講演会	本部 北	4月21日	14:00	北とびあ さくらホール	記念講演演題 「通級による指導を愉しむ ～子供の見方、関わり方～」	前新宿区特別支援相談員 長谷川 安佐子先生	中止
第1回ブロック研修会 (入門研修)		5月19日					中止
第1回ブロック研修会 合計(人)							
第2回ブロック研修会 (入門研修)		6月23日					中止
第2回ブロック研修会 合計(人)							
第3回ブロック研修会 (教室・学級運営)	東	7月14日					中止
第3回ブロック研修会 合計(人)							
中学校特別支援教室課題研修会	本部	8月21日					中止
臨時研修会	本部	9月1日	14:30	国立市立国立第二小学校(ホスト校) ミニサテライト47校	第1部 座談会(Vimeoを活用した動画視聴) 「特別支援教室 感染症対策 下での通級による指導と配慮」 第2部 質疑応答・意見交換 (Zoom)	国立市立国立第二小学校長 小林 理人 西東京市立東伏見小学校 指導教諭 上山 雅久 あきる野市立多西小学校 主幹教諭 中村 敏秀 調布市立石原小学校 主任教諭 尾形 俊亮	577
第4回ブロック研修会 (専門研修)	東	9月8日	14:30	墨田区立錦糸小学校(ホスト校) 墨田区立外手小学校 墨田区立両国小学校 墨田区立菊川小学校	「発達障害児の理解と指導の 基礎・基本～コロナの状況も ふまえて～」 (ホスト校からのZoom配信)	Space Zero PDD 心理 教育研究所所長 (元福島大学大学院教授) 水野 薫先生	112
	北	9月8日			紙面による教材交流(略案・教材紹介など)		
	南	9月8日	14:30	世田谷区立京西小学校 体育館	「特別支援教育で大切にしたいこと」	早稲田大学大学院教職研究科・保健センター学生 相談室臨床心理士 長岡 恵理先生	102
	多摩南	9月8日	14:30	府中市立府中第九小学校 体育館	「特別支援教室で求められる 学習動作の指導について ～新型コロナ対策も視野に 入れて～」	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテ- ーション学科作業療法学 専攻 大学院保健福祉学 科研究科教授 笹田 哲先生	114
	多摩北	9月8日	14:30	ルネこだいら 小ホール	「特別支援教室における小集団 について～小集団指導を 行う意味と課題を考える～」	町田市立南成瀬小学校サ ポートルーム講師 伊藤 久美先生	135
	第4回ブロック研修会 合計(人)						
第5回ブロック研修会 (専門研修)	東	10月13日	14:30	江東区立臨海小学校 体育館	「特別支援教室で求められる 学習動作の指導について ～新型コロナ対策も視野に 入れて～」	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテ- ーション学科作業療法学 専攻 大学院保健福祉学 科研究科教授 笹田 哲先生	98
	北	10月13日	14:30	国立オリンピック記念 青少年総合センター センター棟 セミナーホール417	「発達障害児の理解と指導の 基礎・基本～コロナの状況も ふまえて～」	Space Zero PDD 心理 教育研究所所長 (元福島大学大学院教授) 水野 薫先生	100
	南	10月13日	14:30	大田区池上会館	「特別支援教室における指導 について～授業をどう組み 立て、指導するか～」	町田市立南成瀬小学校サ ポートルーム講師 伊藤 久美先生	102

(3)

研修会名	企画	期日	時間	場所	内容・テーマ・演題	講師等	参加者数	
第5回ブロック研修会 (専門研修)	多摩南	10月13日	14:30	東三鷹学園三鷹市立北野小学校 体育館 調布市立杉森小学校 体育館 ミニサテライト 24校	「感情のコントロールの育ちのメカニズム」 (講師からのZoom配信)	東京学芸大学 総合教育科学系心理学講座 教授 大河原 美以先生	243	
	多摩北	10月13日	14:30	ルネこだいら 小ホール	「知能検査 WISC-IVの結果の解釈～発達特性の理解のために～」	日本臨床発達心理士会茨城支部支部長 大六 一志先生	164	
	第5回ブロック研修会 合計(人)							707
本部		10月	会報「みちびき」134号発行 公立幼・小・中学校等全校配布 計2300部					
第5回夏季研究大会 兼第5回都情研秋季セミナー	本部	11月10日	14:30	国立市立国立第二小学校(ホスト校) 足立区立洲江小学校 江東区立第五砂町小学校 北区立西浮間小学校 品川区立第四日野小学校 品川区立荏原平塚学園 世田谷区立船橋小学校 調布市立石原小学校 府中市立府中第三小学校 町田市立南成瀬小学校 立川市立第八小学校	都情研実態調査報告(DVD視聴)  記念講演(DVD視聴)演題 「通級による指導を愉しむ～子供の見方、関わり方～」  質疑応答(Zoom)	前新宿区特別支援相談員 長谷川 安佐子先生	547	
	東	12月8日	14:30	墨田区立錦糸小学校(ホスト校) 墨田区立第三寺島小学校 墨田区立中川小学校 墨田区立梅若小学校	「特別支援教室の指導・支援の考え方～ケースの見取りと指導内容の組み立て方～」(ホスト校からZoom配信)	町田市立南成瀬小学校サポーター講師 伊藤 久美先生	79	
	北	12月8日	14:30	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟セミナーホール417	「知能検査 WISC-IVの結果の解釈～発達特性の理解のために～」	日本臨床発達心理士会茨城支部支部長 大六 一志先生	95	
	南	12月8日	14:30	大田区立南蒲小学校 体育館	「児童期の言語発達：評価と支援」	DIVERSE・ダイバース ことばの発達支援・学習支援室 代表 松浦 千春先生	102	
	多摩南	12月8日	14:30	府中市立住吉小学校 体育館	実践発表(町田市立忠生第三小学校・町田市立本町田小学校) 「賢い体の育て方～ピラミッド構造の考え方に基づいた実践事例～」	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学 専攻 大学院保健福祉学 科研究科教授 笹田 哲先生	105	
	多摩北	12月8日	14:30	柴崎学習館	「発達障害児の認知特性に即した指導」	Space Zero PDD 心理教育研究所所長 (元福島大学大学院教授) 水野 薫先生	90	
第6回ブロック研修会 合計(人)							471	
第7回ブロック研修会 (地区別)	地区	2月9日	14:30	各区市町村において 参加者人数は集計していない				
本部		3月	会報「みちびき」135号発行 公立幼・小・中学校等全校配布 計2300部					
本部		3月	令和2年度活動報告資料発行					
全研修会参加者合計(人)							2765	

## ◆令和三年年度「定期総会」案内

## 【日時】

令和三年四月二十日(火)  
十四時開始予定

## 【場所】

A 品川区立総合区民会館  
「きゅりあん」大ホール  
(定員500名)  
B 国立オリンピック記念  
青少年総合センター  
カルチャー棟大ホール  
(定員380名)

※B会場はサテライト会場となり、A会場とZoomでつながります。

## 【記念講演】

「学校経営の視点から特別支援教室を考える」指導の充実と専門性の向上を図るために(講師)

創価大学 教職大学院  
准教授(本会元会長)  
渡辺 秀貴 先生

※ホームページからの事前申し込みをお願いします。当日の受付は行いません。希望する会場を選択してください。申込み期間は四月一日(木)から十七日(土)二十四時までですが、定員に達し次第締め切ります。

※新型コロナウイルスの状況等により、中止する場合があります。中止の決定が直前になる可能性がありますので、当日に都情研HPで必ずご確認ください。

## 令和3年度 東京都公立学校情緒障害教育研究会 活動計画

月	日	曜	研修会名、事業名
4	13	火	企画運営本部委員研修会①
	20	火	第1回 企画運営本部会・役員
			令和3年度 定期総会・記念講演会 地区ブロック本部会（5地区合同）
5	11	火	企画運営本部委員研修会②
	25	火	第1回 地区ブロック研修会（都情研入門）
	-	-	●都情研実態調査（全地区、基準日5月1日）
6	8	火	企画運営本部委員研修会③
	22	火	第2回 地区ブロック研修会（都情研入門）
7	6	火	企画運営本部委員研修会④
	13	火	第3回 地区ブロック研修会（教室・学級運営）
	-	-	★東京都教育委員会との連絡会
	-	-	◆会報「みちびき136号」発行
8	上旬		企画運営本部委員研修会
	20	金	臨時 中学校特別支援教室課題研修会 第2回 企画運営本部会・役員会（午前または課題研終了後）
			★三連協（都難言、都弱視）
9	7	火	第4回 地区ブロック研修会（専門研修①）
	28	火	企画運営本部委員研修会⑤
10	12	火	第5回 地区ブロック研修会（専門研修②）
	26	火	企画運営本部委員研修会⑥・研究大会準備
11	9	火	企画運営本部委員研修会・研究大会準備作業
	16	火	第6回夏季研究大会（兼第6回秋季セミナー） 午後のみ開催（14：00～16：30）
	28	日	第53回 全国情緒障害教育研究協議会 東京大会
12	7	火	第6回 地区ブロック研修会（専門研修③）
	14	火	企画運営本部委員研修会⑦
	-	-	◆会報「みちびき137号」発行
1	18	火	地区ブロック本部会（5地区合同）・企画運営本部委員研修会⑧
	25	火	企画運営本部委員研修会
2	8	火	第7回 地区ブロック研修会（各区市町村）
	22	火	第3回 企画運営本部会・役員会
3	8	火	企画運営本部委員研修会⑨
	-	-	◆会報「みちびき138号」発行 ◆都情研「令和3年度 活動報告」発行

◆今年度を振り返って  
東京2020、記念すべきオリ  
ンピックの年となるはずだった今  
年度、賑やかで忙しくなりそう  
な夏に備えて、研究大会等を秋に  
ずらして活動計画を立てました。近  
くの街道を走る聖火ランナーやス  
タジアムの競技に旗を振る子供た

ちを想像し、一生の思い出に残る  
体験ができて良かったね、と声を  
かけるつもりでいました。そんな  
中、突然始まったCOVID-19  
との闘いの日々は既に一年以上に  
及び、まだ先の見通しが立ちませ  
ん。  
昨年度末からの本会が行った緊

急対応の数々では、皆様にはご理  
解とご協力をいただき、誠にあり  
がとうございました。令和二年度、  
私達が直面したのは、「感染症拡  
大防止に努めつつ、いかに専門研  
修を止めないか」という課題です。  
定期総会や夏までの研修会の中止  
を決定した後、リモート会議で対

応策を検討してオンライン研修会  
の可能性を探り、試行のためのプ  
ロジェクトチームを発足させまし  
た。各地区のWEB会議システム  
の導入状況の調査、企画運営の会  
議での活用実験、検証のための臨  
時オンライン研修会の事前撮影や  
編集、サテライト会場の確保、当  
日の消毒等予防体制の準備等々、  
多くの先生方のご協力と連携プレ  
イで、実に整然と着実に様々な対  
応策が進んでいきました。そして  
学校再開後の九月一日、年間活動  
計画にはなかった臨時のオンライ  
ン研修会を試行しました。久しぶ  
りの専門研修に、会員の皆様から  
感激のメールが届きました。専門  
研修を止めてはいけないという気  
持ちは、皆一緒だったのだと思  
います。

その後のブロック研修会、そし  
て十一月の研究大会も、オンライ  
ン研修のスタイルや、人数を減ら  
しての対面式のスタイル等、各ブ  
ロック本部の先生方のご尽力によ  
り、万全の予防対策を取りながら  
実施してまいりました。  
来年度も感染症対策が続きます  
が、皆様のご理解ご協力を得なが  
ら本会の活動を継続してまいりま  
す。引き続きお力添えを、よろし  
くお願い申し上げます。

企画運営本部総務 上山雅久

第五回都情研究大会兼秋季セミナー 記念講演

「通級による指導を愉しむ子どもの方、関わり方」

元新宿区天神小学校通級指導学級担任 長谷川安佐子

講演では、通級による指導について、たくさん事例を交えて分かりやすくお話ししていただきました。紙面に限りがあるため、お話のかなりの部分を割愛せざるを得ず、誠に残念です。それでも、とても示唆に富む内容ですので、最後までお読みいただき、今後の指導に生かしていただければと願っています。

(広報担当)

通級による指導とは？

今は特別支援教室と呼ばれていて、名称が変わってから入った方は、「通級」という言葉は馴染まないかも知れません。正式な名称は「通級による指導」です。あまりに特別支援教室とか巡回教員とか、拠点校という名前が出回ってしまつて、「通級による指導」というのを文字で見たり、聞いたりするとがとでも少ないと思います。

私がいた時代は「情緒障害等通級指導学級」と呼ばれていました。情緒障害とその周りに関係する子供たちを扱うという意味で「等」

が入っていました。元々は自閉症のお子さんを対象に始まったもので、私がいた頃は、自閉症は情緒障害だと思われていたのです。育つ環境や親の接し方が悪い。そういう色々な要因のなかで普通の子供が自閉的な傾向になつていくと医学的に言われていたのです。段々その概念が変わつてきて、もともとその人のもつている特性とか、生まれもつたものだということになり、概念として「情緒障害」のなかに収まらなくなつてきたので、「情緒障害等」と付けたと聞いています。今は、ほとんどが発達障害と呼ばれているお子さんが入つていると思います。

指導内容は？

通級は、通常学級では受けられない特別な指導をしていく教室ということと、通常学級でできることを通級でやつてはだめなのです。個別指導の上手い担任は、「何ページやりなさいよ」と全体に指示を出して、みんながしんとしてやつている時に、手の掛かるお子さんをきちんと回つて個別指導をした

り、休み時間や給食の配膳の時、放課後などに個別指導をしたりしています。そういう通常学級でできる個別指導と同じことをやつても、特別支援教室の意味がないのです。

自立活動と教科の補充のうち、教科の補充は非常に分かりやすいですね。学年によって内容が決まっています。何をやるかが分かりやすいので、ついそちらに流れてしまふことがあるかなと思います。ただ、「教科の補充」は、通常学級の担任が考える教科の補充ではないのです。通常学級でやつている漢字の指導を個別でやるのが特別支援教室の指導ではないということです。確かに個別指導でやると同じ字を習つても全体でやるよりは内容も頭に入ります。でもそれは、通常学級で担任ができにくいところを個別にやつているだけなので、復習や補習なのです。そういうことではなくて、自立活動の視点をもつた教科の補充なのです。私が教えていた五年生のADHDのお子さんで、とても漢字が苦手な子がいました。お母さんが真面目な人だから、いい加減に書いた字は全部消してやり直しをさせるのです。だから、すごく時間がかかつて、「もう嫌だ嫌だ。漢字嫌だ。」というふうになつているお子さんでした。何かこの抵抗感とつてあげた方がいいなと思つて、「いちくを、跳ねたら、三本で」

と調子よく、絵描き歌のように書いていくと書き順通りに書けるといふ辞典を通級の時にやらせてみました。そうしたら「先生、これ結構分かるね。」と言つて、すごく嫌々ながら変な字ばかり書いていたのが少しは書けるようになって、宿題が楽になつた感じでした。

また、駄洒落が大好きな子がいて、新しい漢字が出てきた時に、「一つだけこの漢字を使った熟語を作ってみようよ」と言つと、わざと変な使い方をして「これ、どう？」って見せてくれました。で、見たらすごく当て字のやり方が面白くて、つい私も笑つてしまいました。それで、いつも変な使い方一つと、正しい使い方一つを書かせるようにして、漢字の練習をしていました。駄洒落と関係なく書かせようとするとすごく大変なのだけれど、駄洒落だとすごく楽しんで書くので、駄洒落で書く分には抵抗感が少なくなりました。色々な面で漢字に抵抗感が少なくなつたことで、宿題の圧迫感とか、そういうものはなくなつていったかなと思えました。

教科的な面の取り組みもやつてもいいけれど、その子に合わせてやるということなのです。その子が少しでも楽になる方法、抵抗感が少なく学習できる方法を考えてあげる。そして、こういうやり方なら分かるよというやり方を見つけたら、通常学級の先生に知らせ

て、連携もできるとよいと思いません。

それから、ある教室を見に行つた時に、一週間の反省というのをやっていたのですね。一週間を振り返って、「〇〇先生に注意されるようなことをしなかった？」と聞いて、「何曜日に誰々と喧嘩した」とか、叱られたことを全部報告させていたのです。「その時はどうやればよかったの？」などと通常学級のことを反省させているのです。私は、通常学級で十分指導されていることを通級に来たときにもやらないかと思いましたが。多分、家に帰っても怒られているのです。そのうえ、またこの教室に来た時に注意されるのでは、たまつたものではありません。叱つたり、駄目なことを駄目と評価させたり、「こんなことをやつたでしょ。」と指摘することで解決するものではないかもしれません。この子が少しでも通常学級で問題行動が減つたり、仲良く友達と過ごしたり、先生に認められたりするために私たちは何をしたらよいかというのを探るべきです。もしやるのだったら「一週間のなかで一番楽しかったことはどの教科のどんな場面？」とかを聞くとよいと思いません。

### 自立活動とは？

自立活動は、その子に合わせて選んでやるものです。六区分二十

七項目のなかから選択して、その子に合わせたものをやるということとです。発達障害の子はコミュニケーションとか、環境の把握とか、人間関係の形成とか、その辺りが引つかかる子が多いかなと思いません。なかにはやはり体の動きが引つかかる子がいると思います。体の動きがスムーズではないために、遊びのなかでみんなど互角にできない子もいます。それから、粗大運動と微細運動と言っているのですが、大きな動きができない、ぎくしゃくしている子は、小さなことも苦手なことが多いです。ハサミで切るとか、マスの中にきちんとした字を書くとか、そういう細かい動きができないというのは、大きな動きも自分のコントロールのなかに上手くおけない子が多いです。だから体の大きな動きをやつて十分に体を使えるようにするということも並行してやつていく方が、書字ばかり練習するよりも効果が高いと思います。特別支援教室になった頃は、運動する場がないことも多かったようですが、今は交渉して貸してもらおうなど色々しているみたいです。

ここに来る子たちは、体の面では心配がない子が多いのですが、睡眠時間が非常に短いとか、夜なかなかよく寝られないという健康の保持に課題があるタイプの子もいます。やはり体を使つていなかったり、長くゲームをやっていた

り、睡眠時間がすごく短いようなお子さんは、親が気を付けて管理してくれるようなお家だといいたいけど、そういうお家とも限らないので、自分で健康のことを学んでいくということが大切な子もいるのではないかなと思えます。

### 指導形態

指導形態としては、個別指導と小集団指導です。特別支援教室の小集団指導は、個別的な配慮をした小集団指導と言われています。小さな集団でやるということだけでなく、そこに個別的な配慮があるということとです。途中でその子が困れば担当の先生がちよつと助言したり、指導の中で「これを一人ずつ一分で話してもらおうけど、担当の先生とちよつと一回練習してきて」とリーダーの先生が指示を出せば、それぞれの担当の先生がスピーチを聞いて、個別に指導を入れてくれて、その後、みんなの前でスピーチするというようなことができます。また、何かを決めるときも、「二度、担当の先生と希望の順番を決めておいて」と相談して決めてから行くと、なかなか決められない子も安心して自分の希望の順番に手を挙げるすることができます。小集団のリーダーをやるときも一人で四、五人を預かっているわけではなくて、その子

取り組みができるというのが、通級の小集団のよさです。それをうまく生かしてやっていただけだといいと思えます。

このように小集団でいろいろなことに取り組むことができます。例えば、ゲームなどで勝たないと気が済まない子がいます。勝たないと、途中でゲームを投げ出してしまつとか、騒いでゲームをひっくり返してしまつ子がいます。そういう子も何回か負ける経験をしていく中で「負けても我慢する方がえらい」とか、負けてもこういう方法をとれば自分は我慢ができるとか、徐々に自分で学んでいく例が多いです。

大事なときに大事な言葉が出ないとか、うまく使い方ができないお子さんがいます。私が見た小集団の事例で「カメラで相談」という単元がありました。二人組になつて、教室のどこで写真を撮るかを相談します。二人の意見がまとまったら先生のところに二人揃つて行って「先生、写真を撮つてください。お願いします」とお願いして写真を撮ってもらい、そして最後にどんな写真を撮つたかをみんなの前で発表するのです。二人で相談するというのもよい活動だし、先生に二人揃つてお願いしていくということも入っているし、丁寧な言葉を使うなどいろいろ必要な要素が入っています。そして、最後にみんなの前で撮つた写真のこ



とを話すという楽しいことも入っていて、簡単だけどなかなか面白い取り組みだなあと思いました。

他の学校でジェスチャーゲームという単元をやっていました。面白かったのは、二人組でやるようなお題を出していることです。野球やお医者さんなど、立場の違う二人が同じ場所にいるようなお題を出して、二人でどちらの役をやるかを決め、どんな場面をやるかを決め、そしてジェスチャーでみんなに見てもらって何をやっていくかを当ててもらう活動を積み重ねてきていました。最初はなかなか話合いができなかったようです。しかし、何回か積み重ねていったら、だんだんスムーズに役割分担できるようになり、どんな場面をやるかを決められるようになり、そしてみんなの前でジェスチャーの問題を出すことができるようになりました。

小集団で体育的なことをやるときに、二人や三人くらいでないと運べない大きな物を競争して運ぶという活動がありました。そうすると、三人でどこを持つかを分担したり、落ちたら拾いにいく人がいたり、いろいろな分担をしながら三人で一つの物を運びます。こういうことは経験しないとできない子が多いです。マットを引っぱるなど片付けそのものはできて、二人でやるということができないです。遅い子を気遣ってペースを

落とすということができない子が出ています。いろいろなことを二人組や三人組でやるということが意図的に計算されて単元に組まれて、いろいろなことができるようになると思われました。

### 子どもを理解するとは？

本人の特性にプラスして、育ち方や周囲の影響が関係してくる子達です。学年が上がってクラスが変わり、担任の先生が変わると、今まで問題を起こしてきた子がピタッとクラスにはまって、目立たなくなる場合があります。その反対に、今までクラスの中にうまくおさまって指導がうまくいったかなと思っていたのに、学年が変わったら教室から飛び出したり友達に暴言・暴力をしたり、とても問題になるという例もあります。周りが変わるとその子も変わるというのも確かです。周りに受け入れられていくかどうか、その担任の先生が上手に声かけしてくれているかどうか、友達の中にとっても相性が悪い子がいるかどうか、いろいろな条件で子供の状態は変わってきます。本人はもちろん特性をもっているけれど、それに保護者の育て方の影響とか、周囲からの影響などがかなりある子達なので、その両面から見る必要があります。

また、通級が始まると、それまでとても落ち着かなかった子が安

定する場合もあります。一週間に一回、同じ日に行って個別に関わってもらったり小集団でいろいろなことができるのと、一週間のリズムができるのだと思います。保護者も通級に預けたことで一安心して、保護者が安定するから子供も安定するということがあります。

心理テストを参考にするという事についてですが、心理テストを受けている子が多いと思います。私たちは専門ではないけれど、読むととても参考になることがあります。よく「目が強い、耳が強い」ということを話題にすることがありますが、目が強い子はあまりくどくど説明しても入りません。だから、大事なことをメモして説明するという方が入りやすいです。耳がいい子は、言葉だけで書いてあるとなかなか難しく、言葉で詳しく説明したり具体的に説明したりしてあげれば入っていきます。そのどちらが強いかということ、心理テストに書いてありますので、それを見るときに思います。こういう子たちは、得意な分野と苦手な分野に偏りがあることが多いです。それを読むと、どういう点が得意でどういう点が苦手で、苦手なことはどういう手立てをしていけば少しはやりやすくなるかということが書いてあることが多いです。

中には記憶力が弱い子がいます。

記憶力が弱いというのはその子の特性で、「覚える」と言っても覚えられないので、覚えられるような手立てをとることが大事です。それが通級の場に分かると、「こういう風にメモをしてあげれば本人も分かりやすいですよ」と通常の学級の先生に知らせることができそうです。「初めてやることについては①、②、③・・・と手順を短い言葉で書いてあげてください」とか、予定がとても気になる子は、一時間目が何、二時間目は何、どの場所でするかなどを書いてあげると、落ち着く場合もあります。

自閉の傾向のとてもこだわりが強い子は、予定通りやってもらうのが一番安定するので、なるべく予定は崩さないことが大事です。どうしても崩さないといけないときは事前にちゃんと予告するということ、通常の学級の先生は分かっていることがないので、そういうことを情報として出してあげることが大切な場合があります。本人なりの捉え方や感じ方、得意なことや苦手なことを知らせてあげるのもいいと思います。

### 指導のポイント

子供の苦手なことやできないこと、困っていることを改善してあげようと思うので、通級に来たら苦手なことばかりやらされているということがありません。バランスの偏りがある子なので、得意なこ

とを使ったり興味・関心が強いところを使ったりすると、とても取り組みがよくなったり、改善される場合があります。ですので、苦手なことだけでなく、得意なことなどを把握してやるのが大事かなと思います。同じ漢字を学習するにしても興味がある漫画に出てくる漢字だと知っていることがあります。電車が好きな子なら、何々線という漢字は読めるので、それを使って指導することもできます。

通常の学級の先生は喧嘩ばかりして困るとか、人に手を出して困るとか、教室を出て行って困るとか、騒ぎ出して困るとか、困ったことだけを言いがちです。特別支援教室の先生は、どうしてそのようになるかという背景を考えたり分析的に見たりして、どのような条件だったらそのようになるかという実態を細かく観る目をもってほしいと思います。できれば、どのような条件なら与えられた課題をやるのかという「できる観点」をもって、こういうことを少し足してあげればできる、分量を減らせばできる、枠を大きくしたら書けるなど、どのようにすればできるかということを考えていくことが大事だと思います。

どうも私たちは「頑張りなさい。」と言ってしまいがちです。「頑張りなさい」ではなく、「今頑張りなさいと言ったのは、何を先生が

期待しているか」を言ってあげるものが大切です。ある時は、「十分は静かにして、このプリントをやること」が頑張りなさいだったり、またある時は、「なるべく多くの友達にサインを貰って来ること」が頑張りなさいだったり、「大きな声で発表すること」が頑張りなさいだったりするのです。その時によつて頑張りなさいが違いますが、それがなかなかピンとこないお子さんが多いので、何をどう頑張りなさいのかを教えてあげるとよいです。数字とか量にするとか分りやすいです。「この漢字を五個書こうね。」それが頑張りなさいと示されれば、求められていることが分かります。

それから、どうしてもその学年のルー ルや守らなければいけないこと、やって欲しいこととかがあるので、子供たちにその学年並みのことを求めてしまうのですが、本人はともそこには到達できていない子がいます。だから本人の感じ方とか、今ここまでできているというところをよく見ながら、それよりも少しでも頑張りなさいと認めていかないと、「同じ四年生なんだからこのぐらいできるでしょう。」と言われたら少しも褒めることがないのです。

当たり前だと思えることでも認めていくことが大事で、普通の四年生が当然できることもその子がやったので「偉い」ということだ

ってあります。そういう時に、認めたり褒めたりしていくことが必要だと思えます。事後指導でなく、事前に伝えるということも大事です。「負けてもワーワー言わないでこうしようね。」と事前に言っておけば、随分心構えができます。それで本人はそのことを頑張りなさいとするのです。ワーとなった後に、「負けた時にそんな態度とつていいの？」みたいなにお説教することは、こういう子たちは変わって、はこないのです。目標を上げて、それを頑張りなさい、少しでもやろうとして褒められるということで、段々段階が上がっていくので、事前に目標を作つてそれを守らせていく経験を通級で積んでいくことが大事だと思います。それができているのは、双方のことをよく分かっている通級の先生だと思います。

それから、整理整頓が非常に悪い子がこの頃多いです。「これも整理しなさい」では、できないのですね。やはり練習していかないとできないのです。新宿区に支援員の方が入っているのですが、「朝来たら準備する物」というのを全部絵にしてやっています。終わったら印を付けていくと、全て支度が終わつたとなるように、絵カードを作っていました。そういう物があると整理がしやすくなって、そういうものを見ながら整理するということ学んで、段々と整理整頓のやり方を覚えていくという事も

あるかと思えます。

よく「ソーシャルスキル」が大事だと言われているので、プリントで勉強をしている教室も多いのです。こうなったらどうしますかと言うような。あれをやつても全然身に付きません。「先生には丁寧な言葉を使う」と言うようなことをプリント上で学んでも、実際に丁寧な言葉を使う体験をしないとできないようなにはならないのです。そのようなことをできるようになるのがこのような教室の役目なので、プリントだけで学ばせるのではなくて、実際の行動とかゲームとか、二人のやり取りの中で学ばせていくというのが一番大事なかと感じていきます。

なるべく色々な教室の色々な先生と話をし、様々なやり方があるという事を学んで、その子に合った事をやらせていただければと思います。

是非頑張りなさいこの仕事を続けてもらえれば大変嬉しいです。

## 編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたら左記までお寄せください。

編集・発行 企画運営本部広報担当

各ブロック 広報係

世田谷区立桜小学校(石田明人)

☎03・3415・5597